

会議録（概要）

会議名	平成29年度 第1回芦別市いじめ問題対策連絡協議会		
年月日	平成29年6月8日（木）	時間	17:55～19:40
場所	芦別市役所 3階 第1会議室		
出席者	出席委員（13人） 田中委員、松井委員、山田委員、照井委員、相馬委員 西村委員、福島委員、中村委員、平手委員、林委員 竹内委員、久保田委員、和田委員 担当所管（5人） 学務課 山田課長、木野田係長、鈴木主査、田畑専任指導員 生涯学習課 本間課長		
議題	1 開会 2 委嘱状交付 3 会長挨拶 4 自己紹介 5 副会長選任 6 議事 (1) 報告事項 ア. 平成29年度 学校・教育委員会の取組計画について イ. 携帯電話・スマートフォン・ネット利用のルールについて ウ. ネット利用に関するアンケートの結果について (2) 協議事項 ア. 芦別市いじめ防止基本方針について イ. いじめ対策等の周知方法について ウ. 芦別市いじめ問題対策連絡協議会の今後の活動について 7 意見交換 8 閉会		

議 事	<p>1 開会</p> <p>2 委嘱状交付 教育長より推薦団体の役職変更等による新規委員に委嘱状を交付。</p> <p>3 会長挨拶 (福島会長より挨拶) 全国的にいじめを起因とする痛ましい事件が後を絶たないという状況である。本市では重大事態の発生はない状況ではあるが、各学校において、今後さらに適切な指導、あるいは教育活動をしっかりと図っていかなくてはならないと考えている。委員からの忌憚のない、色々な角度からの意見をいただきながら、本市のいじめ未然防止・根絶に向けた取組を加速していきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。</p> <p>4 自己紹介 各委員、事務局自己紹介</p> <p>5 副会長選任 副会長として、林委員が選出された。</p> <p>6 議事 (1) 報告事項 ア. 平成29年度 学校・教育委員会の取組計画について (事務局) 平成29年度実施予定の芦別市内の小・中学校と教育委員会のいじめ防止に関する独自の取組や北海道教育委員会等が主催する取組への参加予定等について報告。今年度開催予定の芦別市仲間づくり「子ども会議」については、各委員に案内をするので、都合のつく委員は参加していただきたい旨を説明。 (委員) 些細なことではあるが、芦別市仲間づくり「子ども会議」が昨年はこの会場で開催されたのだが、会場が狭い印象を受けた。また、自分自身の反省でもあるのだが、子ども達が緊張しないようにラフな格好で来た方がいいのではないかと感じた。 (事務局) 実は私どもも、狭さを感じていた。ここより広いところとな</p>
-----	---

ると、他の施設を利用しなくてはならないため、日程調整をしながら検討したい。

イ. 携帯電話・スマートフォン・ネット利用のルールについて
(事務局)

平成27年度の協議会発足当時から議論を行い、平成28年度に最終案を作成した、携帯電話・スマートフォン・ネット利用のルールについて、関係団体の内容確認を終え、平成29年4月に市内全小中学生にリーフレットを配布、各学校でPTA総会等を利用しての保護者への周知、芦別市ホームページへの掲載を行い周知活動を行った旨を報告。

(会長)

4月に周知をして2か月程度経つと思うが、保護者や学校等からなにか反応はあったのか。

(事務局)

学校からは、目安ではあるが時間等が記載されているため、児童生徒に時間を示して指導をしやすくなったとの声をいただいている。

ウ. ネット利用に関するアンケートの結果について

(事務局)

平成28年度までは、携帯・スマホ等のアンケートとして実施していたが、質問項目の見直しを行い、小学校5年生から中学3年生を対象に5月に実施した。今年度からタブレットという項目を追加したが、小学生に関しては、タブレットの所持率が高く、主たる利用目的がゲームであることがわかった。スマホのルールについては、昨年まで、ルールを作っている家庭は50%程度で横ばいであったが、今年度は60パーセントを超えており、4月に配布した携帯電話・スマートフォン・ネット利用のルールについての周知活動が一定の効果を上げていると考えられる。

しかし、SNSの利用者は年々増加しており、利用時間の長いものの割合も例年と同程度いるため、家庭の中でルールについて話し合っていたきたいと思っている。

SNSについては、特定のグループ、特定の人と利用するなど、落ち着きが見られるようになってきた。これからもネットの利用に関する指導を進めて行く必要があると思われる旨を報告。

(2) 協議事項

ア. いじめ防止基本方針について

(事務局)

「芦別市いじめ防止基本方針」の内容、重大事案が発生した時の流れについて説明。

平成29年3月に国の基本的な方針の改定があり、現在、北海道の基本方針についても改定が必要かを検討中であるが、市の基本方針の見直しのタイミングをどうするか等について提案。

(委員)

芦別市の基本方針は、国・道の基本方針を踏まえて作成しているため、現状、見直しが必要な部分がないため、北海道の基本方針が出てから、芦別市も見直しが必要かを検討した方がいいのではないか。

イ. いじめ対策等の周知方法について

(事務局)

平成28年度までに実施した、芦別市ホームページや教育だよりでの「いじめ」に関する周知について報告。周知については、委員から出た意見を取り入れているため、新たな周知方法等についての意見を求めた。

(委員)

所属団体で携帯電話・スマートフォン・ネット利用のルールについて話をした。私は年配の方はネットが見られないので、紙面での周知をお願いした1人なのだが、団体の中で、教育だよりが固苦しく見えるという意見が1～2件であるが出た。「私はネットも見れないし、広報も見していない。」と言っている方もいたので、見てほしいとお願いしたところである。教育だよりの1ページ目に囲みでその号の大事なところを掲載してみると中を見てもらえるのではないか。

(事務局)

教育だよりを見ていただけるよう、工夫したい。

(委員)

色々な会議に出ていると、芦別市のいじめってどんなものがあるのか等と聞かれることがある。全国的に重大事態が報道されているので、芦別市ではどうなのかと心配されているようである。周知することにより、色々な意見も出てくるのではないかな。

(委員)

いじめのような問題が解決した後で、地域に知れ渡って、再燃してしまったということもあったので、現時点では、こういうことがあるというのを年に2回程度でも周知する機会があればいいのではないかと。

(委員)

学校名を出さずに、小学校・中学校という括りでもいいのではないかと。学校別にしてしまうと、地域的にわかってしまう場合もあるので。

(委員)

どこまで周知するのか、内容を公表するのかということは非常に難しい問題だと思う。公表することによって、実際にいじめられている子やその保護者が「自分のことだ」ってならなければいいんですけども…。

(委員)

守秘義務と情報開示の狭間のような話になっているように感じる。自分も名前等を聞かずに話を聞いていても、芦別に住んでいると、あそこの家のことだとわかることが多い。情報開示も危険といえ、危険ではないかと感じている。

(委員)

周知することで広く知れ渡るといのはわかるが、逆に周知することによって、いじめていた子が逆にターゲットになるということも考えられるのではないかと。先ほども話があったように、こういう事案があったということを公表すると、かなり特定されてしまうのではないかと。公表するのであれば、かなり慎重な考え方でいかななくてはならないと思う。

(委員)

いじめという中には、兄弟げんかとか、ちょっとした勘違いだったということもある。加害児童生徒も同じ芦別の児童生徒なので、難しいと思う。

事例を公表するのであれば、解決方法も一緒にお知らせした方が前向きな感じがするのではないかと。

(会長)

いじめのアンケート調査では、先ほども話が合ったように、本当にいじめなのかというものもあるが、子ども達がいじめだと感じたものの集計結果である。アンケートは6月と11月に行っているが、いじめられた経験があると回答した児童生徒が現在もいじめられているかという設問にはいじめられていな

いと答えている。そこは学校としてもしっかり問題の解決に向かっていった結果だと思っている。学校としても非常に頑張っている。私に対しても、各方面から色々な意見がある。今の時代、市民の皆様に関心を持っていただくためにも公表が必要なのではないかという思いもある。ただ、それが変に一人歩きしてしまうのではないかと危惧しているところもあり、悩んでいる。

(委員)

本当に悩ましい問題だと思う。一番大切なのは、いじめられている子の声をキチンと受け止めていく周りの大人だと思う。不登校や引きこもりの子ども達が小さい頃、いじめを受けており、トラウマのようになっている場合があるという話も聞く。子どもに近い大人、教師なり保護者なりがどう把握して関わっていくかだと思う。

公表については、みんな知りたいのだと思う。しかし、興味を持って知っても、あなたはこれからどうするのかということが大切なのではないかと思う。

先生方は本当に一生懸命やっていると思う。家庭では保護者も悩みながら頑張っている。中々心を開かない子どもを相手に。そのために社会がそれだけ力を貸せるかということが大切になってくると思う。

(会長)

公表に関して色々な意見をいただいた。今すぐに、こうしますということとはできないが、校長会等にも本日の意見を説明しながら、現状の芦別になにが一番望ましいのかを話していきたいと思う。

ウ. 芦別市いじめ問題対策連絡協議会の今後の活動について

(事務局)

第2回目の芦別市いじめ問題対策連絡協議会は平成30年2月2日金曜日、午後6時から、市役所3階第1会議室で開催を予定している。第2回目の日程が例年よりも早い時期になっているが、委員の任期が平成30年2月3日までとなっているため、現委員には2年間の活動経験を基に、新委員には新たな視点での協議をお願いしたく、このような日程を設定した。

また、芦別市仲間づくり「子ども会議」が平成29年12月21日木曜日に開催されるため、可能であればご覧いただきたい。

4. 意見交換

(会長)

いじめ問題に関して意見等があればいただきたいという趣旨の意見交換である。

(委員)

今まで充職で色々な会議に出席したが、父親の子育てに関する認識が大切ではないかと思っている。母親は色々な場面で子育てに関する情報を得るが、父親は子育てに無関心な部分がある場合も多いと思う。自分もそうだったのではないかと思う。今日の話聞いていて、家庭環境の大切さを感じ、そのようなことについても話し合ってもいいのではないかと感じた。

(委員)

小さい子も含めた幅広い話になってくると、高校も本会議に参加していただいた方がいいのではないかと感じた。いじめに関しては年齢が進めば進むだけ程度がひどくなっていく。小中学生の子ども達も将来は高校生になり、社会人になって行くので、このような場で情報交換をしていただけないかと思う。

(委員)

芦別市仲間づくり「子ども会議」には高校生も参加していることも踏まえると来ていただけた方がいいのではないか。

(会長)

事務的な話をすると、本協議会は条例によって設置することが定められており、委員の定数も決まっている。その中に高校が入っていないので、条例を改正するという方法とオブザーバーとして参加をお願いする方法があるのではないかと思う。

(委員)

実際に高校生の話を聞くと、高校の方がいじめの件数が多いように感じる。小さいいじめでも子どもにとってずっと引きずってしまう場合もあるので、高校にも入っていただければと思う。

(会長)

教育委員会として高校と意見交換をしていきたいと思う。

(委員)

初めて出席したが、大変勉強になった。市外の高校に行っている子の話を聞くと、芦別はいい子たちが多いのかなという印象を受けている。それでも、いじめと認知している件数はゼロではない。やはり保護者が強く子ども達と関わっていかなくてはならないと感じた。

(委員)

実際に子ども達を見ていて、周りからみたら些細なことでも、当人にとっては非常に大きなことだったりもするので、そういうところを学校・保護者・地域が今まで以上に連携を取ってやっていたかなくてはならないのかなと今回初めて出席して、改めて感じた。

(委員)

多くの人に関心をもっていただくことが大事だと強く感じた。熱い方が多く、学校でもこのような方々の存在は非常に心強い。今後ともよろしくお願ひしたい。

(会長)

教育委員会も学校と連携しながらしっかりと対応していきたいという思いである。また色々な機会の中で叱咤激励を含めた意見をいただきたい。

8 閉会